

OXYRIUM 導入事例



Voice.01 / 東京都

東京慈恵会医科大学病院

外科教授 **大木 隆生**

- 導入機器：OXYRIUM MEDICAL 特注品
- 導入時期：2013年8月

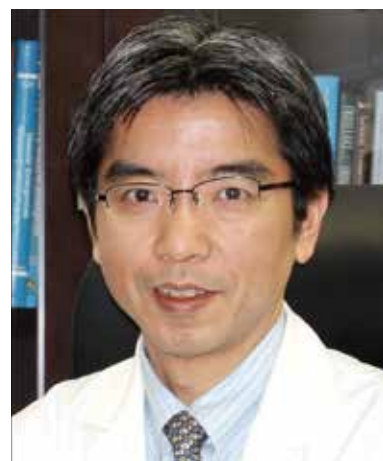
高級外車に惜しげなくお金を使う余裕があるなら
酸素カプセルの方が断然有益

酸素カプセル(高気圧チャンバー)に関しましては どのようにお考えでしょうか？

これで疲れがとれるのであれば素晴らしいと思います。それに、この防音と空調の効いたカプセルに入ると都会にいながら軽井沢の森林の中にいる様な気分になれます。それだけでも鋭気が養えます。

1.3 気圧クラスより気圧の高い酸素カプセルの違いに関して、 どのような違いが期待できるとお考えでしょうか？

より濃度の高い高気圧のものに入ることによって短時間で効果を得ることができ、限られた時間内で効果を得たい方に適しています。

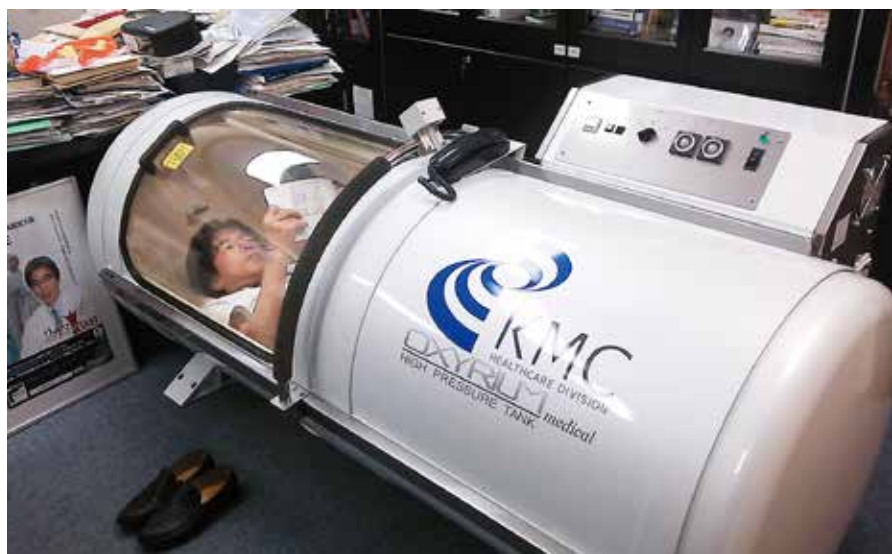


東京慈恵会医科大学病院
外科学講座 統括責任者
血管外科 教授・診療部長
高知県 龍馬・観光特使

おおき たかお
大木 隆生

専門分野：血管外科 大動脈瘤、
閉塞性動脈硬化症

1962年、高知県生まれ。米国アルバートアインシュタイン医科大学外科教授兼任。大動脈瘤(りゅう)に対するステントグラフト治療の第一人者。2012年から高知県観光特使も務める。



酸素カプセルはどのような方にお勧めされたいとお考えでしょうか？

日常生活の中で蓄積された疲労の深い方。日本では健康機器扱いですが、米国では創傷治療の効果が期待できるとされ既に保険診療として普及しています。

今後、カプセルの導入を検討されている方に一言いただけますか。

高級外車を購入する余裕があるなら酸素カプセルの方が断然有益だと思います。



大木先生よりご感想

今般、御縁あって、酸素カプセルを教授室に導入してみました。健康機器と割り切って、マッサージチェアなどと同様の器具との認識で騙されたと思って使い始めました。

1日が24時間では不足であると感じているのは、私だけではないはず。あくなき効率性の向上や成果主義の結果、睡眠時間を犠牲にすることで対応している方は少なくないのではないのでしょうか？ 倦怠感を払しょくするために、これまでは携帯型の酸素濃縮スプレー、カフェイン剤、栄養ドリンクなどを使用してきましたが、運動選手などが利用する健康機器としての酸素カプセルの中で最高気圧に指定した酸素カプセルの導入も解決策の一つに加えてみたのです。

保険診療下で治療として行う高気圧酸素療法とは一線を画する別の見地から、ただ科学的興味の赴くままこの機器を利用してみました。期待以上の効果に満足をしています。



DR. TAKAO OHKI



日常生活の中で、蓄積された疲労の深い方々が利用する機器とのフレーズが気に掛りました。健康と思っている人たちの多くが忙しい仕事や趣味で疲労とうまく付き合いながら生活をしているでしょう。まさにコップの大きさいっぱいに水を注ぎ込み、身体が音を上げるほど頑張っているのではないのでしょうか。この酸素カプセルを導入した当初は疑心暗鬼でしたので、その効果を調べてみようという簡単な実験をしました。

それは息止めです。

この酸素カプセルの中10分ほど入った後で、何分息止めができるかを測定してみたところ何と5分もできました。カプセル外ではせいぜい2分が限界です。これは考えてみれば当然の結果かもしれませんが、ここまで顕著な結果に驚きました。

高気圧の環境が十分かつ安全に、私の身体に何らかの影響を与えている事を知るエピソードと言えます。それと、確実に言えることは、この防音と空調の効いたカプセルに入ると、そこは軽井沢の森林の中にいるような気分になれます。

一週間に数回、都会にいながら軽井沢で森林浴ができた気分になれるだけでも何らかの効果があると信じています。

病床にある患者さんのリハビリ治療や、手術後の

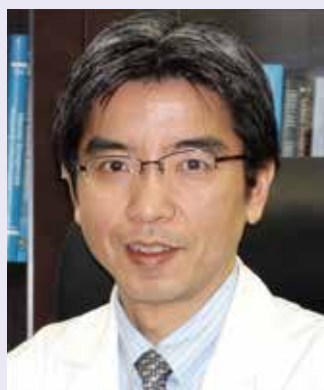


創傷の治癒にも効果があるかを検証することにも興味が尽きませんが、それは専門の先生方にお任せをすることにいたします。

高級外車に惜しげなく数百万円もお金を使う余裕があるなら、明日の“頑張りのコップ”を少し大きく引き伸ばすことにそれを振り分けることの方が生き金となるのではないのでしょうか？



Profile



おおき たかお
大木 隆生

東京慈恵会医科大学病院
外科学講座 統括責任者
血管外科 教授・診療部長

専門分野：血管外科
大動脈瘤
閉塞性動脈硬化症

最終学歴：東京慈恵会医科大学大学院卒業

略 歴：東京慈恵会医科大学附属病院 臨床研修
東京慈恵会医科大学第一外科入局、外科医員
米国アルバートアインシュタイン医科大学 モンテフィオーレ病院血管外科研究員
米国アルバートアインシュタイン医科大学 モンテフィオーレ病院血管内治療科部長
米国アルバートアインシュタイン医科大学 モンテフィオーレ病院血管外科部長
米国アルバートアインシュタイン医科大学 血管外科学教授
東京慈恵会医科大学 血管外科講座教授、診療部長
東京慈恵会医科大学 外科学講座Chairman (統括責任者)
政府の成長戦略を議論する「未来投資会議」メンバー

主たる学会認定医・指導医情報：日本外科学会専門医 日本心臓血管外科学会専門医

所属学会：米国血管外科学会 国際血管内治療学会 国際血管病学会 日本外科学会
日本心臓血管外科学会会員 日本血管内治療学会等

その他：2002年 Newsweek「世界で認められた日本人10人」
2006年 Newsweek「世界で尊敬される日本人100人」
第50回 国際脈管学会会長
Japan Endovascular Symposium 代表 (第1~7回)

<http://www.e-oishasan.net/site/ohki/>